

研究専攻（専門領域）		文化環境研究専攻(文化人類学)		学籍番号	07CS007
氏名	久渡 亜希子	ローマ字	KUDO Akiko	国籍 (留学生)	
修士学位論文名		先古典期マヤ南部地域における社会複雑化プロセス			
提出年月日		2009年1月13日		指導教員	井口 欣也
体裁 (論文)		83頁(1頁文字数1440字)		言語	日本語
別冊添付資料等		図版52頁			
キーワード		社会複雑化プロセス マヤ先古典期 交換ネットワーク			
<p>現代と同じように複合社会（階層化社会）は政治、経済、宗教などの様々な社会システムが結合して成り立っている。社会複雑化プロセス研究とは、社会変容を社会システムが複合的に結びついて起こる現象として捉えるアプローチである。</p> <p>本研究で対象とするマヤ地域は、新大陸の中でもスペイン到達期に長距離交易が発達していた地域であり、マヤ南部地域はメソアメリカの中でも複合社会の形成が早くに確認されている地域である。このマヤ南部地域で社会複雑化プロセスを解明するには、地域全体を包含する社会システムを見るべきであると考え、交換ネットワークを分析で扱うことにした。また、これまで同地域では社会複雑性のイデオロギー的側面を取り扱う研究が多かったが、社会システムの多面的な分析が必要と考え、本論文では社会経済的側面に焦点を当てることとした。</p> <p>分析の第1段階としては、セトルメント・ヒエラルキーをマヤ地域の対象サイトに設定し地図を作成した。更にランカーサイズ分析を行い、地域内で人口の局地化、集中がどのように現われるかを考察した。人口の集中や分散といった現象と社会的経済的な複雑化のプロセスを結びつけて解釈した。</p> <p>第2段階では、黒曜石の交換ネットワークの復元を試みた。交換ネットワークの変化には社会関係の変化が表れるためである。交換ネットワークは産地特定可能な交換財でなくては復元できないため、本論文では産地同定されている黒曜石を分析対象とした。マヤ先古典期研究者は、黒曜石石刃は社会的意味を持つ交換財であると考えてきた。この黒曜石の産地別分布状況と、石刃製作サイトを特定することで、マヤ南部地域の地域間、地域内関係を考察した。</p> <p>これらの分析結果から、先古典期のマヤ南部地域内でセトルメント・ヒエラルキーの変化に見られる社会複雑性に差異が生じていることが明らかになった。つまり地域全体のプロセスが一様ではなかったということである。また、黒曜石交換ネットワークの復元からも、多様な交換網が統合されるという結果にはならなかった。これはマヤ南部地域全体に単一の政体があったとする一部の先行研究の議論を否定するものである。</p> <p>また、黒曜石分析データや立地環境的に考え、同地域がマヤ南部地域全体の交換ネットワークの中継地であった可能性があると言及した。黒曜石の他に、近年の胎土分析で原産地特定されたマヤ南部地域の3つの土器型式が同地域にのみ全て存在していることが分かっており、この結果からも裏付けられる。そして同地域では他地域のように人口の集中が見られないことと、中継地という役割に何らかの関連性があったことについて論じた。</p> <p>これらの議論より、マヤ南部地域において、交換ネットワークにおける地域の役割と、人口局地化し、集権化するという社会複雑化のプロセスの間に相関関係があることを結論として述べた。</p>					